







竹下氏より  
婦人の子供を  
素の目で見ると  
白く十五三の  
妻の目に見え  
りながら、  
く、  
山崎氏の  
おとこ

七月三日

砂丘

今、竹下氏の  
お前様、  
奥の院様、  
と、  
父の、  
金、  
お前様の、  
お前様の、



一、各分會須由會長及各分會代表

[illegible]

ちんちん

李長石

卷之五

[illegible]

号

陽征門書也  
水何如又  
之  
是年  
是

其意誠然。而此等文字。實非大儒所宜有。

自序

一 讀書如飲水 飲之不覺其甘 而飲之不覺其苦 此讀書之妙也 讀書之妙 在於心領神會 而不在于字句之拘泥 讀書之妙 在於心領神會 而不在于字句之拘泥

自序

讀書之妙 在於心領神會 而不在于字句之拘泥 讀書之妙 在於心領神會 而不在于字句之拘泥 讀書之妙 在於心領神會 而不在于字句之拘泥

自序

自序

自序

一 讀書如飲水 飲之不覺其甘 而飲之不覺其苦 此讀書之妙也 讀書之妙 在於心領神會 而不在于字句之拘泥 讀書之妙 在於心領神會 而不在于字句之拘泥

● 市ノ下ノ  
● 皇皇院極ノ中我知分ノ由及事也  
● 事當りたる處ニ至ル

東山草堂

華嚴院所ノ山ノ下ノ事ニ至ル極ノ事ニ至ル  
我知分ノ由及事也  
一日ノ事ニ至ル極ノ事ニ至ル  
事當りたる處ニ至ル  
事當りたる處ニ至ル

唐書

古ノ事ニ至ル

古ノ事ニ至ル

● 古ノ事ニ至ル

● 古ノ事ニ至ル

● 古ノ事ニ至ル

古ノ事ニ至ル

古ノ事ニ至ル

古ノ事ニ至ル

古ノ事ニ至ル

古ノ事ニ至ル

古ノ事ニ至ル

古ノ事ニ至ル

田圃三百六十畝  
自六月廿三日  
古田縣志

田圃三百六十畝  
自六月廿三日  
古田縣志

田圃三百六十畝  
自六月廿三日  
古田縣志

田圃三百六十畝  
自六月廿三日  
古田縣志





七月

書

六、内、外、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

一、外、内、各、一、

[illegible][illegible]

七

主

[illegible]





一、若經監督所附升市公局，自應

中多誠也。有以心爲主之說者。家外  
里生之矣。蓋言仁是四德之首。故  
則誠之居乎心也。乃言何之。心誠愛善  
諸事。乃交焉。物與心相感而

請以心交之為幸

請以交言納美也

步亦作平日作在之字當時即至

子方所之可成以終之所至者其於心何如  
 心之所至者其於心何如心之所至者其於心何如  
 心之所至者其於心何如心之所至者其於心何如

山川

物亦依心而為同者德之同也

[illegible]

今之世中  
 乃為中  
 乃為中

下田

許升帝星

書以爲記

壬戌年十月廿九日

[illegible][illegible]

交對  
少頃多難性急初意氣為人極信  
那中何事心計心口不一極多事  
此當時金家好信心口不一交信  
急事心口不一心口不一心口不一  
心口不一心口不一心口不一心口不一  
毒心口不一心口不一心口不一心口不一  
常心口不一心口不一心口不一心口不一  
心口不一心口不一心口不一心口不一  
心口不一心口不一心口不一心口不一  
心口不一心口不一心口不一心口不一

此等心口不一心口不一心口不一心口不一

心口不一

一 高家心口不一人 心口不一

心口不一心口不一心口不一心口不一  
心口不一心口不一心口不一心口不一  
心口不一心口不一心口不一心口不一  
心口不一心口不一心口不一心口不一

心口不一

心口不一

一 高家心口不一人 心口不一

心口不一

心口不一

心口不一

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩

一 玉繩



一 俗に云ふに、此の世は、  
二 人の世に、人の世に、  
三 人の世に、人の世に、  
四 人の世に、人の世に、  
五 人の世に、人の世に、  
六 人の世に、人の世に、  
七 人の世に、人の世に、  
八 人の世に、人の世に、  
九 人の世に、人の世に、  
十 人の世に、人の世に、

七月

一 俗に云ふに、此の世は、  
二 人の世に、人の世に、  
三 人の世に、人の世に、  
四 人の世に、人の世に、  
五 人の世に、人の世に、  
六 人の世に、人の世に、  
七 人の世に、人の世に、  
八 人の世に、人の世に、  
九 人の世に、人の世に、  
十 人の世に、人の世に、

おとほのそとにありて  
けしきもよきなり  
とらきし山にありて  
ふもよきなり  
おとほのそとにありて  
けしきもよきなり

おとほのそとにありて  
けしきもよきなり  
とらきし山にありて  
ふもよきなり  
おとほのそとにありて  
けしきもよきなり

おとほのそとにありて  
けしきもよきなり  
とらきし山にありて  
ふもよきなり  
おとほのそとにありて  
けしきもよきなり

おとほのそとにありて  
けしきもよきなり  
とらきし山にありて  
ふもよきなり  
おとほのそとにありて  
けしきもよきなり

之、上とて、家中に於て、  
其の如く、

皇清康熙二十九年

五

所為中法  
省人系  
系

仁孝の心

蘇軾詩集卷之四

卷之五

木下 孝之助

五ノ  
 六ノ  
 七ノ  
 八ノ  
 九ノ  
 十ノ  
 十一ノ  
 十二ノ  
 十三ノ  
 十四ノ  
 十五ノ  
 十六ノ  
 十七ノ  
 十八ノ  
 十九ノ  
 二十ノ  
 二十一ノ  
 二十二ノ  
 二十三ノ  
 二十四ノ  
 二十五ノ  
 二十六ノ  
 二十七ノ  
 二十八ノ  
 二十九ノ  
 三十ノ  
 三十一ノ  
 三十二ノ  
 三十三ノ  
 三十四ノ  
 三十五ノ  
 三十六ノ  
 三十七ノ  
 三十八ノ  
 三十九ノ  
 四十ノ  
 四十一ノ  
 四十二ノ  
 四十三ノ  
 四十四ノ  
 四十五ノ  
 四十六ノ  
 四十七ノ  
 四十八ノ  
 四十九ノ  
 五十ノ  
 五十一ノ  
 五十二ノ  
 五十三ノ  
 五十四ノ  
 五十五ノ  
 五十六ノ  
 五十七ノ  
 五十八ノ  
 五十九ノ  
 六十ノ  
 六十一ノ  
 六十二ノ  
 六十三ノ  
 六十四ノ  
 六十五ノ  
 六十六ノ  
 六十七ノ  
 六十八ノ  
 六十九ノ  
 七十ノ  
 七十一ノ  
 七十二ノ  
 七十三ノ  
 七十四ノ  
 七十五ノ  
 七十六ノ  
 七十七ノ  
 七十八ノ  
 七十九ノ  
 八十ノ  
 八十一ノ  
 八十二ノ  
 八十三ノ  
 八十四ノ  
 八十五ノ  
 八十六ノ  
 八十七ノ  
 八十八ノ  
 八十九ノ  
 九十ノ  
 九十一ノ  
 九十二ノ  
 九十三ノ  
 九十四ノ  
 九十五ノ  
 九十六ノ  
 九十七ノ  
 九十八ノ  
 九十九ノ  
 百ノ

二書ハニ合フニ合ズ

五

喜

南無阿彌陀佛

公 子 子

王守仁先生集

新古今集



今、吾日用此書分三卷